

<ゆか子お姉ちゃんによる CT 解説>

三女から受けた相談をきっかけにして、次女のゆか子に CT を解説してもらいました。CT とは「自分の意見を述べるのではなく、自分が証明（論証）したいことをサポートする事実を分析する」のだそうです。その練習にはかならず、教科書（全教科）や英語のコア・ブック、夏休みに読まれる図書などが使われます。

小学校の低学年から、三女が社会で習ったフランス革命のように、教科書を読んでその内容を要約（Summary）し、自分の意見を述べる練習をしています。そうすることで、次の段階の CT への準備となっています。中・高校レベルでは、本の中の登場人物、内容、テーマ、シンボルなど、個々について詳細に分析する学習があります。数学や社会、理科でもこれに似たような練習や学習があります。そうしてみると、たとえば本を読む人が 30 人いれば 30 人なりに、登場人物や内容、また、テーマやシンボルなどに対する分析結果ができます。読んだ本をもとに自分の Thesis（和訳では論証、次女は「証明」という日本語を使用）を述べ、その証明をサポートするための事実や理由を挙げますが、それらを解釈したり分析したりする作業が、CT 本来の目的なのだそうです。他にも、CT に関する定義や理由などいろいろあるのですが、次女自身が CT 学習をととして身につけたと思うことの、ほんの一部の情報だと思います。

では、アメリカではなぜ、義務教育段階（もしかすると大学も？）でこの CT 学習が取り入れられているのでしょうか。諸説いろいろですが、次女は、「自分の証明をもって相手を『説得』したり『納得』させたりすることにあり、それには分析力をもっとも必要なの。」と言うのです。（母親の私にとって、身につまされるほど説得力のある言葉ですね。）

このテーマについて書き出してみると、英語力の問題だけではなく、現地校で勉強している子ども達の中には、三女と同じように CT 学習で苦労している子どもがいることに気づきました。そして、もしかすると私のように、アメリカ人の親の中にも、子ども同様に証明や理由づけ、分析や説得といったことが大の苦手だ、という人がいても不思議ではありません。おそらく、そういう人は CT 学習が身に付かず、大人になってしまったのでしょうか。

< 18 才までに>

次女が言うとおりでとすると、その逆も真なりと言えます。前述しましたように、クラスに 30 人いれば 30 人の証明や分析があるはずですから、自分の証明で人を説得や納得させられるとしたら、30 人分の納得いく結果もあり得るからです。

現地校の教室ではよく、いろんな教科、課題や宿題の最後にプレゼンテーションという発表の場があり、また、ディーバートという対話の機会が設けられています。それは自分の証明や分析力ばかりでなく、人の発表を聞くことによってさらに、他の人の分析力や説得力をも自分のものにできる場を与えられているのでしょう。

義務教育が終了するまでに、何度となくそのような場数を踏むことで、子ども達がいろんな物の見方や考え方を身につけることで、親が子育てを卒業しなくてはならないような、そんな教育の一つともなっていました。現地校の先生方がよく言われる Independent Thinker 作りというアメリカの公教育の目的があり、その方法の一つが CT だというのが、自分の子どもの言葉で理解できます。

<あなたのお好きに>

子ども達に相談を持ちかけられると、いろいろアドバイスはします。ですが、私が最後によく口にする言葉は、無責任なようですが「あなたのお好きに」です。意図せずに線を引いた 18 才までに、子ども達は自ら選択肢（証明）を作り、その是非（理由）を考え、よりよい選び方（分析）を学習し、おのずと道を開く方法を身につけた・・・、はずですから。

松本 康子（まつもと やすこ）

1979 年、夫の留学で、1 歳半の長女を帯同し渡米。その後、アメリカで次女、三女を出産。専業主婦として子育てと教育を担当。

子ども達は、親から見てうらやましいバイリンガル・バイカルチャーの大人に育ちました。しかし、「アメリカで日本人の子どもをバイリンガルに育てた」私が、実は、子どもに育てられていたのです。このコラムでは、「海外でともに育った母と子」の姿を紹介させていただきます。

皆さんの海外での子育ての参考になりますでしょうか？



CT の日本語訳は「批判的思考法」です。現地校での使われ方は、この訳語が持つネガティブなニュアンスではなく、「疑うことで、より理解を深めること」とポジティブな意味に使われています。

アメリカで学校経験のない康子さんが、子どもさんの現地校での教育を通して、CT の意味と意義を身につけていったようです。

お子さんと康子さんが、お互いに教えられ、共に育っていたのです。